

新たな
価値を
創り出す



哲学の すすめ

◆そもそも「哲学」とはどういうものか

哲学のすすめ●はじめに

なんとなくわかるような気はするけど、人に説明するのはちょっと……。哲学という言葉に対して、多くの人が持っているイメージは、こんなところではないでしょうか。

では辞書には、どんなふうに説明されているか、ためしに一番やさしそうな『ドラえもん版 例解学習国語辞典』（小学館）を引いてみます。すると、

「人生や世の中のことなど、すべての物ごとの真理を探究する学問」

なるほど。小学生向けの辞書ですが、わかりやすく定義しています。政治学や経済学、医学や物理学など、ほかの学問は扱う領域が明確ですが、哲学は「すべての物ごとの真理を探究する学問」。イメージがぼやけてしまうのも、当然といえるかもしれません。

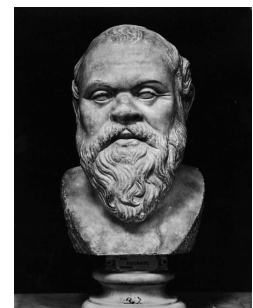
まずは歴史をさかのぼって、哲学発祥の地といわれている古代のギリシャに赴いてみましょう。

◆哲学の祖ソクラテス

そこに、今でも「哲学の祖」と称されている人物がいました。ソクラテスです。この人は、若者たちとの対話を好み、アテネ市中で多くの人たちとさまざまなテーマで議論をしました。政治について、正義について、友情について、ときにはエロスについて。

「なんでそれが哲学なのか」と、ツッコミを入れたくなる人もいでしょう。気持ちはわかります。しかし、こうしたさまざまな事柄について、正しい議論を行って真理を求めようとする態度こそが、哲学（philosophy）の、そもそもの意味なのです。

英語の philosophy は、ギリシャ語のピロス（愛）とソフィア（知恵）の合成語。つまり「知恵を愛すること」はすべて哲学の範疇に属していたわけです。学問領域が未分化だった紀元前においては、天文学も物理学も政治学も数学も論理学も倫理学も詩学も、すべてが哲学の守備範囲でした。



哲学の祖・
ソクラテスの胸像



プラトンの時代の
アカデメイア

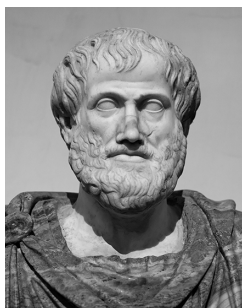
ソクラテスは主に、アテネのアカデメイアという地域で、人々との対話に力を注ぎました。歴史的に見て、この人の最も大きな業績と思えるのは、次の諸点です。

- ①「無知の知」を説いて人々を啓蒙した
- ②「三段論法」による対話術を広めた
- ③ プラトン、アリストテレスなど後継者を輩出させた

「無知の知」とは、自分はまだ何も十分には知らない者である、との謙虚な自覚のこと。だから素直に学ばなければならない、というわけです。ソクラテスは、おのれの「無知の知」を自覚する点において、アテネでは一番の知恵者であるとの宣託を、当地の神殿から受けました。

「三段論法」とは、「AはBである、BはCである、ゆえにAはCである」とする、初歩的な論理展開の方法です。ソクラテスはこの論法を用いて多くの人たちと議論を重ね、相手の無知を指摘しました。

それを詳細に記述して後世に残したのは、弟子のプラトンです。彼はソクラテスの遺志を継ぎ、アカデメイアに学園をつくりました。現代のアカデミー（学問、研究機関など）という言葉はここからきています。



アリストテレスの胸像

そのプラトンの弟子に、アリストテレスという大物が現れ、この人が多くの学問領域の区分けを、ほぼ完成させました。系譜としてみると、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの三代の師弟によって、哲学という広大な学問の礎が築かれたわけです。

◆愛知の精神の極みといえる『饗宴』

プラトンが著したソクラテスの言行録は、一括して「対話篇」と呼ばれています。その中に、「これが哲学の本に分類されるの？」と驚く一冊があります。書名は『饗宴』、副題は「エロスについて」。

ギリシャ語のエロスとは、アガペー（神の愛）の対語で「人の愛」を意味します。いわゆるエロの原語ですが、もっと広い意味合いの言葉です。

人はなぜ愛し合うのか。その起源をめぐって、何人もの人たちが延々と熱弁をふるうのが『饗宴』です。長椅子に寝ころび、ワインを飲みながら。

大学の哲学科に進んだ年に、筆者は初めてこの本を読み、文字どおり椅子から転げ落ちそうになりました。これが名著とされるソクラテス&プラトンの哲学書なのかと。

結論からいえば、たしかに哲学書なのです。繰り返しになりますが、哲学とは「人生や世の中のことなど、すべての物ごとの真理を探究する学問」なのですから。

長椅子やワインは別としても、人生や物ごとの真理を探究する姿勢こそが哲学の出発点。紀元前のギリシャでは、まだ素朴なレベルでしたが、それが古代から中世、近世から近代へと、年月を経るにしたがって探究のレベルが上がってきました。

◆ソクラテスふうの授業で人気を博した人

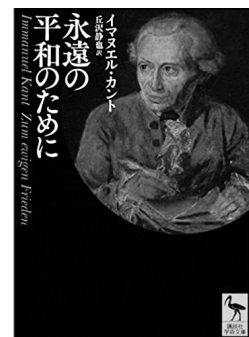
今の時代に哲学というと、なにやら深遠そうなことを難しい言葉で考えるしかつめらしい雰囲気があります。たとえばカントの著書のタイトル『純粋理性批判』や『道徳形而上学原論』のように。訳語がカタイために哲学そのものも超カタイ印象ですが、先入観を取り払って考えると、それほど深刻なものではありません。

一例をあげると、カントなどの倫理学を学んだ現代の政治哲学者であるマイケル・サンデルは、ハーバード大学でソクラテスのような対話形式の授業を行い、注目されました。その様子は「ハーバード自熱教室」の名でテレビ放映され、2010年代にEテレ史上最高の視聴率を記録しています。著書『これからの「正義」の話しよう』は、かなり歯ごたえのある内容にもかかわらず、やわらかなイメージがうけて数十万部のベストセラーになったほどです。

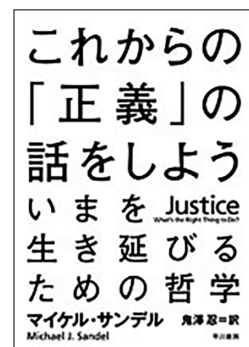
現代では学問が高度化・細分化されて、哲学は主に認識論、存在論、形而上学、倫理学などを扱うものとされています。思い切り単純化していうと、



『饗宴』岩波書店



国際連盟設立の基盤となった『永遠の平和のために』講談社



『これからの「正義」の話しよう』早川書房

- 認識論 「知る」とはどういうことかを探究する学問
- 存在論 「在る」とはどういうことかを探究する学問
- 倫理学 「正義」とはどういうものかを探究する学問
と表現できるでしょう。

また哲学は、物ごとの根本原理を探究するという意味合いで、政治哲学、科学哲学、数理哲学などのように、ほかの個別学問と融合して名づけられるケースも多く見られます。西欧では、今でも哲学は「万学の母」として位置づけられているのです。

◆「形而上学」って、なに？

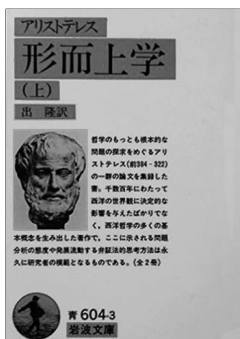
哲学は難しい、という先入観を人に——とくに日本人に——植え付けている一因は、専門用語（訳語）の難しさにあります。先にあげたカントの『純粋理性批判』と『道徳形而上学原論』を例にとってみましょう。

純粋理性とは、経験に先立って人に^{そな}えられた認識能力のこと。目的の実現に向けて意志を統御する実践理性と区別して使われる用語です。批判と訳されているのは、英語の critique、吟味すること。純粋理性と名づけた認識能力についてよく吟味してみよう、というタイトルだと考えれば、そんなに近づきにくいものではなくりますね。

形而上学のほうは、形あるものの世界（物理＝physics）に先立つ（meta）根本原理を探究する学問（metaphysics）。中世においては、神が世界を創造したとする仮説が、学問や信仰の対象となりました。これが形而上学の典型的な例のひとつです。

現代でも生物の進化論を否定し、形而上学としての神学を教え込んでいる国や地域があることは、みなさんもお存じのことだと思います。

西洋哲学の専門用語は、それにぴったり該当する日本語がなかったため、苦心して造語を当てはめた。結果として、多くの人から難しそうな学問と敬遠される土壤ができてしまった——。筆者はそんな印象をもっています。



『形而上学』岩波書店

物ごとを根本から考えてみる。人のあり方や生き方を厳密に考えてみる。それが実践知としての哲学だと解釈し、自分の人生に活用すればよいのではないか。そんなふうに思っ、筆者はこのテキストを書きました。

◆テキストの構成について

当初このテキストは、同じ筆者による『古典を読もう ― 日本文化と思想と発見』の姉妹編として、『古典を読もう ― 世界の文化と思想の発見』（仮題）のつもりで執筆を始めました。

書き終えてから振り返ると、プラトン、デカルト、カント、パスカル、カミュなど、哲学者の本が多くを占めていることに気がつきました。^{きっすい}生粋の哲学者ではなくても、哲学的な思想家のものも少なくありません。前に述べたとおり哲学が「万学の母」であれば、当然の帰結といえるかもしれません。

はじめから『哲学を読もう』のタイトルだったら、もっと専門的な哲学案内となり、ビジネスパーソンには「頭が痛くなる」というか、あまり活用できないものになったかもしれません。

その点、このテキストは、「人はどう生きるべきか」の観点から哲学の知恵と、その周辺に位置する啓発的な知恵を盛り込んだ、バランスのよい教養テキストになったのではないかと思います。

- 日常生活と仕事において「正義」を貫くとはどういうことか
- 自分の思想的信条をつくるには、どんなアプローチが必要か
- リーダーの器量を磨くには、どんな人を見習えばよいか
- よき人生を全うするために、考えるべきチェック項目とは

みなさんがこうした実践知を身につけ、ワーク・ライフ・バランスの観点からも充実した人生を送る一助となれば、筆者としてこれに優る喜びはありません。

本田有明



『古典を読もう ― 日本文化と思想と発見』
日本監督士協会



「考える人」ロダン

『新たな価値を創り出す——哲学のすすめ』 目次

はじめに —— 3

第Ⅰ部

世界の代表的な思想を学ぶ

- 1 国家的視点で「リーダーの条件」を考える●『国家』プラトン —— 10
 - 2 人の上に立つ人にはどんな哲学が必要か●『自省録』マルクス・アウレーリウス —— 14
 - 3 「今を生きる」とはどう生きることか●『人生の短さについて』セネカ —— 18
 - 4 コーチングの元祖として『論語』を読む●『論語』孔子 —— 22
 - 5 運・鈍・根で人生を切り拓く視点●『菜根譚』洪自誠 —— 26
 - 6 キリスト教が育んだ資本主義
●『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』マックス・ヴェーバー —— 30
 - 7 「自分の哲学をもつ」ための方法●『方法序説』デカルト —— 34
 - 8 倫理学を日々の生活に導入する●『道徳形而上学の基礎づけ』カント —— 38
 - 9 ロボット、AIと人は共存できるか●『ロボット』チャペック —— 42
 - 10 6時間労働の国は人類の理想郷といえるか●『ユートピア』トマス・モア —— 46
- 研究課題1 —— 50

第Ⅱ部

自分を高めるために何をするか

- 11 不機嫌な顔をせずに生きる心がけ●『幸福論』アラン —— 52
- 12 自分の職務の中で幸福を実感する●『人間の土地』サン＝テグジュペリ —— 56
- 13 マキアヴェリズムの是非を検討する●『君主論』マキアヴェリ —— 60
- 14 現代に生きる「自己啓発の古典」●『自助論』スマイルズ —— 64
- 15 上手な悩み方を会得する●『パンセ』パスカル —— 68
- 16 自己実現を果たす基本的な考え方●『完全なる経営』A・マズロー —— 72
- 17 たくましく生きるために必要なこと
●『人間 この未知なるもの』アレキシス・カレル —— 76
- 18 人間通になるための「頭の体操」●『ラ・ロシュフコー箴言集』ロシュフコー —— 80
- 19 職業的な誠実さとはどういうことか●『ペスト』カミュ —— 84
- 20 自分を律するチェックリストをつくる●『フランクリン自伝』フランクリン —— 88

■研究課題2 —— 92

第Ⅰ部

世界の代表的な思想を学ぶ

- 1 国家的視点で「リーダーの条件」を考える ●『国家』プラトン
- 2 人の上に立つ人にはどんな哲学が必要か ●『自省録』マルクス・アウレーリウス
- 3 「今を生きる」とはどう生きることか ●『人生の短さについて』セネカ
- 4 コーチングの元祖として『論語』を読む ●『論語』孔子
- 5 運・鈍・根で人生を切り拓く視点 ●『菜根譚』洪自誠
- 6 キリスト教が育んだ資本主義
●『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』マックス・ヴェーバー
- 7 「自分の哲学をもつ」ための方法 ●『方法序説』デカルト
- 8 倫理学を日々の生活に導入する ●『道徳形而上学の基礎づけ』カント
- 9 ロボット、AIと人は共存できるか ●『ロボット』チャベック
- 10 6時間労働の国は人類の理想郷といえるか ●『ユートピア』トマス・モア

1

国家的視点で「リーダーの条件」を考える 『国家』プラトン

『国家』の副題は「正義について」

「2020年度の地方公務員の懲戒処分は4,244人、国家公務員は296人だそうです。なかなか大したものですね。モラルはどこにいったやら」

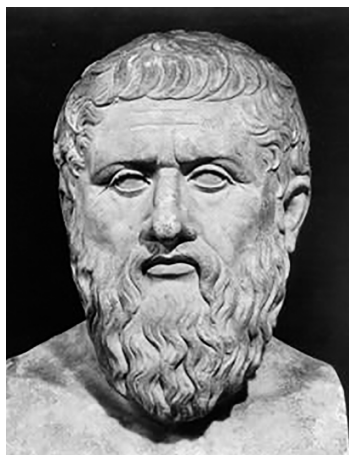
しばらく前の話になりますが、ある会社の役員が、雑誌のデータを見ながら嘆きました。

モラルはどこにいったやら……というなら、公務員だけではありません。政治家や企業トップの不正にまつわる記事が、マスコミをにぎわすことも珍しくはありません。こうした事案に、景気の良し悪しは関係ないようです。不正は「いつでも・どこでも」発生します。

モラルが地に墜ちたということは、要するに「正義」に関する認識が希薄になったということでしょう。

正義ということでは、何年か前に『これからの「正義」の話をしよう』という本が異例のベストセラーになりました。著者は当時ハーバード大学教授のマイケル・サンデル氏。この人の講義風景を扱ったテレビ番組「ハーバード白熱教室」も、NHKのEテレ史上、最高の視聴率を記録しました。「正義」というテーマに関心のある人が、それだけ大勢いたわけですね。

今回の通信講座『新たな価値を創り出す——哲学のすすめ』で扱う最初の本のテーマも「正義」です。プラトンの『国家』には「正義について」という副題がついています。



リーダーは哲学者であれ

プラトンという名前は、学生時代に聞いた覚えのある人が少なくないでしょう。古代ギリシャの哲学者で、師ソクラテスの言行を対話篇として残した人です。『ソクラテスの弁明』『饗宴』などが有名ですが、政治哲学の分野ではこの『国家』が主著となっています。

正義を貫くためには、リーダーは哲学を修めなければならない。この「哲人政治」という言葉が、本書の最も重要